

かごしま林業普及だより

第16号 (令和6年11月)

目次

(1) 再造林の推進	・・・【鹿児島指導区】	1 頁
(2) 鹿児島市農林水産まつり	・・・【鹿児島指導区】	1 頁
(3) 南薩の枝物生産魅力アップ研修	・・・【南薩指導区】	2 頁
(4) 森林作業道作設技術研修	・・・【南薩指導区】	2 頁
(5) 薩摩川内市立川内小学校における森林環境教育	・・・【北薩指導区】	3 頁
(6) 始良・伊佐地区「森林のまつり」の開催	・・・【始良・伊佐指導区】	3 頁
(7) 鹿屋農業高校職場体験実習（インターンシップ）を実施	・・・【大隅指導区】	4 頁
(8) 鹿屋農業高校で枝物生産説明会を開催	・・・【大隅指導区】	4 頁
(9) 種子島木材リレーフェア	・・・【熊毛指導区】	5 頁
(10) 森林経営プランナー育成研修	・・・【普及指導部】	5 頁

ホームページで試験研究や
林業普及活動、森林環境教育
などの取組を紹介しています！



鹿児島県森林技術総合センター
普及指導部

再造林の推進

人工林資源が本格的な利用期を迎えてきており、主伐が増加している中、当地域では、主伐後の再造林対策が課題となっています。

再造林の推進について、現在取り組んでいる主な再造林対策について紹介します。

まずは、0.5ha以上の伐採地について、再造林が計画されていない林業事業体を対象に、適正な伐採と再造林が行われるよう市と共同で個別の現地指導を行っています。

個別指導の際に、事業体に聞き取りする中で、「森林所有者に再造林を提案しても断られる」という回答が多いため、事業体に対する個別指導を継続しつつ、今後は、森林所有者に対する再造林の普及啓発にも力を入れていきたいと思えます。

そのほかに、「人手不足等により再造林が進まない」と言われることもあることから、再造林の取組を行っている林業事業体とのマッチングなどについても進めているところです。

次に、再造林推進の取組の一環として、今まで伐採届出旗や認定旗を現場に掲揚してもらった取組を行ってききましたが、今回、新たに再造林旗を作成し、管内の関係者に配布したところです。

再造林旗は、今まで森林法第8条の2及び第15条（森林経営計画対象）に基づく伐採届出済みである証として、伐採届出旗や認定旗を掲揚していた現場において、更に、再造林を計画している場合に同時に掲揚していただき、再造林を行わない現場との峻別化を図ることを目的としています。

今後、地域の関係者と一体となったこのような取組の一つ一つの積み重ねにより、本地域の再造林が進んでいくよう取り組んでまいります。

(塩山 英男)



伐採現場の再造林個別指導



森林法10条に基づく伐採届旗



森林法15条に基づく認定旗



再造林旗、伐採届旗、認定旗の掲揚

鹿児島市農林水産まつり

11月17日(日)に鹿児島市都市農業センターにおいて、鹿児島市農林水産まつりが開催され、そのブースのひとつとして保護者同伴の小中学生を対象とした木工体験(本立て製作)を実施しました。

参加した子供たちは、トンカチを使った釘打ちに苦労しながらも保護者との共同作業のこいもあり、怪我もなく立派な本立てを製作していました。

また、本立ての製作を早く済ませた子供たちは、世界で自分だけの本立てを完成させるべく色付きペンで絵を描いたり、かわいいシールを張り付けたりして立派な本立てを完成させていました。

完成した本立てを嬉しそうに抱えている子供たちの様子を見て、このことがきっかけで木材の良さを少しでも感じてもらえればと感じた一日となりました。

(山之内 美穂, 塩山 英男)



木工体験状況



木工体験状況

南薩の枝物生産魅力アップ研修

南薩管内におけるシキミ、ヒサカキ、サカキの枝物生産量は県全体の約3割を占めており、これまで産地化を進めてきたところですが、近年、高齢化等により、生産者数は減少傾向にあります。

このようなことから、管内の枝物生産への新規参入を促進するため、昨年度より地域振興推進事業を活用し、枝物生産に関心のある方や、今後、枝物生産林の管理作業の受託等を検討している方を対象として、県で開催している専門的な枝物生産者養成講座より受講しやすく枝物生産の魅力を知ってもらえる入門的な研修会を開催しています。

開催にあたっては、広く周知を図るため各市の広報誌や回覧板等で募集を行った結果、11名の受講申込みがありました。

研修内容は、午前の室内研修で枝物生産の現状や栽培方法のほか、指導林家で南薩枝物生産組合の坂口会長による枝物栽培の経営に関する講話等を行い、午後からバスで管内生産者の作業場や圃場を視察しました。

研修参加者は、Uターン者をはじめ、退職後に農業の副収入や遊休農地の活用法として枝物生産を検討されている方など様々でした。

皆さん室内・現地研修ともに熱心に受講され、講師や生産者へ栽培の留意点や必要な資機材等について質問をされており、熱意をひしひしと感じたところでした。

(山下 幸一、長谷川 徳幸)

南薩指導区



室内研修の状況



現地研修の状況

森林作業道作設技術研修

9月26日～27日に南薩流域森林・林業活性化センターにおいて、森林作業道作設技術研修を実施しました。

今回の研修には、流域内の森林組合のほか薪生産者を含む林業事業体から4名の参加があり、開講式後、室内研修では普及指導員が講師となり「県森林作業道作設指針」やフォレストサーベイ発刊の「森林作業道づくり」に基づく基本的な講義を行いました。

午後からは南九州市市有林内の既設作業道に移動して、現地研修の講師をお願いしているかごしま森林組合の桐木平氏より、線形の考え方や作設のポイント、根株による路肩の補強、現地発生材による丸太組工や水切り横断工の作設などの講義を行いました。

また、その後、同市有林内の作設中作業道現場において、各作業工程毎に講師による実演後、受講生は交代でマンツーマンでの指導を受けながら重機による作設作業を行いました。

2日間と短い研修でしたが、講師である桐木平氏のこれまでの経験と技術に基づく分かりやすく的確な指導により、充実した内容の研修となり、全員無事に修了証を手に入れました。

来年度も広く流域内の林業事業体へ周知を行い、更なる現場技術者の育成に努めて行きたいと考えています。

(山下 幸一、長谷川 徳幸)

南薩指導区



現地研修の状況



修了書を手にする受講生

10月25日（金）に薩摩川内市立川内小学校で第1回森林環境教育推進事業を実施しました。

川内小学校は、国道3号線沿いに有り16学級、全校児童289名（R6.4月現在）で創立146年となる歴史ある小学校です。

今回は、6年生42名を対象に「森林・林業教室」と「木工教室」の2本立てで行いました。「森林・林業教室」では「地球温暖化防止と森林のはたらき、林業のお仕事」と題して、地球温暖化の仕組みや地球温暖化防止のために自分たちに何ができるか、地球温暖化防止には森林が必要で、その森林を適正に管理するためには林業と言う仕事がないと成り立たない産業であり、「林業が地球を守っている」ことを児童に解りやすく説明したところ、大きく頷きながら聞いてくれました。

次の「木工教室」では、木材を使うことは地球温暖化防止に繋がるとして、木製の椅子作りに挑戦してもらいました。作り方は、森林・林業教育指導員である淵脇保久さんの指導を仰ぎながらスタート。

さすがに6年生ともなればのみ込みも早くさっさと作業を進めていましたが、途中で釘打ちに疲れ金槌を我々に預けようとしたり、作る順番を間違えて一からやり直す場面もありましたが、それぞれの個性あふれる「世界に一つだけの椅子」を完成させることができました。

感想を聞くと「地球温暖化と林業のことを知ることができた」、「椅子作りが楽しかった」、「疲れた」と様々。午前中の時間を全て使ったため、児童達は終わるとお楽しみの給食へまっしぐらでした。

次回は、2月にシイタケ駒打ち体験を予定していますので、学校と連携しながら進めて参ります。

（伊佐敷 和孝）



森林・林業教室

始良・伊佐地区「森林のまつり」の開催

10月20日（日）に霧島市隼人町において、「森林のまつり」を開催いたしました。このイベントは森林の大切さ、木のぬくもり、木の良さを来場者に知っていただくため、毎年、始良・伊佐地区の森林・林業・木材産業関係者の協力のもと開催しています。

イベントは恒例となっている、子供たちによる丸太切り競争、木製時計や木製キーホルダー、松ぼっくりを使ったミニクリスマスツリーなどを製作する木工クラフト、木製ボックスを製作する木工教室、子供たちの成長の記念となる杉板を使用した手形切り抜きなどを行い、順番待ちの列ができるほど好評でした。

今年は新たに、スギ・ヒノキの卵形ボールを大量に使用した「木製たまごプール」と「木製大型ジェンガ」を設置しました。「木製たまごプール」では、長時間に渡りプールに体をうずめたり、寝転がる子供たちが続出しました。また、「木製大型ジェンガ大会」では、グループで連携してかなり大きめのパーツを抜き取り、上段へ積み上げていくのですが、パーツの大きさが微妙に異なるため、ぐらつく不安定な中、皆さんワイワイ言いながら高さを競い合っていました。

また、大好評の餅まき大会では、多くの方が集まり、子供の部・大人の部ともに皆さん楽しそうにお餅やお菓子を拾っていました。

更に、霧島市の間伐材を活用して作られた小型電気自動車の霧島市公用車（もくまる）の展示や森林・林業に関するパネル展示など、来場者に木の良さ等を感じてもらえたと思います。

今後もこのようなイベントを開催して、森林・林業のPRを行っていききたいと思います。

（永野 昌伸）

始良・伊佐指導区



木製たまごプール



木製大型ジェンガ大会

鹿屋農業高校職場体験実習(インターンシップ)を実施

11月12日(火)～15日(金)にかけて鹿屋農業高校職場体験実習(インターンシップ)を実施しました。

今回受け入れを行った生徒は、農林環境科2年生の男子2名で、高校卒業後は林業関係の仕事に就業を希望しており、国、県等の行政機関も視野に入れて勉強を行っているとのことでした。

インターンシップは4日間に分けて行い、林務係と森林土木係で協力して実施しました。

初日に若手職員との対話を行う時間を設け、入庁1～2年の職員に鹿児島県職員(林業)として就業した場合のやりがいや厳しさ等を伝えていただくとともに気軽な雑談等を行いました。

その後、伐採跡地の視察及び製材工場や志布志港の見学を実施し、2日目には造林検査の体験、検査後の検査ルート作成及び補助金算出を行いました。

3日目にはドローンによる測量用の空撮と森林調査を実施し、空撮した写真を基にオルソの合成や森林調査の結果から材積や収量比数の求め方等を実習しました。

4日目には森林土木係により林道現場におけるICT施工の紹介と現場見学、治山現場でレベル、勾配定規等の機器による測量実習を行いました。

2人は、「県職員が日頃どのような仕事をしているか少しだけが見ることができた。貴重な経験ができた。」と話していました。

最後に笑顔で去って行く2人を見て、今後の頑張りに期待したいと感じました。(鶴田 正輝)

大隅指導区



若手職員との対話



森林調査実習

鹿屋農業高校で枝物生産説明会を開催

11月18日(月)、鹿屋農業高校園芸科2年生を対象に、枝物生産説明会を開催しました。

昨年は、農林環境科の林業・造園コースの生徒を対象に実施したのですが、今年は学校側との事前の打ち合わせで、研修内容が「花き」の勉強をしている園芸科の方が、より枝物生産に対する理解が深まるのではないかと意見があり、研修対象を園芸科に絞り実施することになりました。

講師をお願いした県の枝物相談員の坂元英仁氏は、昨年に引き続き快く引き受けてくださり、準備はスムーズに進みました。

研修は、はじめに坂元氏の作業場で、私の方からシキミ・サカキ・ヒサカキの見分け方や用途、県内の枝物の生産状況について説明した後、坂元氏が枝物の出荷状況や売上、シキミの「くくり」などについて説明しました。

実際、生徒に「くくり」を体験してもらいましたが、参加した生徒はみんな手際が良く(種子島からこちらにきている生徒がいたので話を聞いたところ、祖父が種子島しきみ生産組合の組合員ということでびっくり。)、指導されていた坂元氏やパートさんたちも大変驚いていました。

また、生徒の中には、「くくり」で使用されなかった枝葉の末端を使って超ミニサイズの「くくり」を売ってみてはどうだろうかとの意見も出て、昨年以上に枝物生産に対する理解・関心が高まったのではと思うところでした。(岩 智洋)

大隅指導区

枝物に関する説明(坂元氏)



「くくり」体験



種子島木材リレーフェア

熊毛指導区

10月下旬から11月上旬に種子島の各市町で開催される産業祭等において、種子島産材の利活用の促進と森林・林業の役割等についての普及啓発を目的に、種子島木材リレーフェアを実施しました。

フェアでは、①種子島の森林や林業、木造建築に関するパネル等の展示、②木の良さを体感し、木材利用への理解を深める木工教室、③種子島の森林・林業や種子島産材の利用に関する意識やニーズを調査するアンケートを実施しました。

パネル等の展示では、種子島の木の家の事例等を展示していたところ「種子島にもこんな木の家があるんだ〜」や「種子島でこんな木の家を作る会社があるの？」などいろいろな感想を頂きました。

木工教室は、子供や大人にも大人気で、特に家族連れのお親は一所懸命に作られており、親としての威厳を十分示せる傑作ができていました。

実施したアンケートでは「住宅や家具等に使用する木材の産地として望ましいものは」との問に対して、7割の方が「国産又は県産材等」と回答しており、「住宅を建てる場合の工務店等はどう探しますか」との問に対しては、「知人・友人等の紹介」が最も多い回答となっており、国産材又は県産材等に対するニーズの高さと、口コミの影響力を再認識する結果となりました。

できたての本立てをうれしそうに抱える子供達が、郷土の森林や林業に少しでも興味を持ってくれるように、これからも取り組んでいきたいと思えます。
(岡崎 博樹)



木工教室

森林経営プランナー育成研修

普及指導部

本県の人工林資源は本格的な利用期を迎えており、森林資源の循環利用を通じて、林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立が求められています。

県では、平成19年から林業事業者等の技術者を対象に集約化施業の提案と合意形成、間伐や木材販売、コスト分析などの専門的知識を備えた「森林施業プランナー」を育成しており、令和2年度からは、森林経営管理制度やスマート林業の推進など新たな課題に対応した研修を加え、名称を「森林経営プランナー」に改めたところです。

現在、新規プランナーの育成については、下記のとおり基礎から実践までの研修を段階的に行っています。

- ① 「一般基礎研修」：プランナーとしての基礎的な知識の習得を目的に7月10日実施（参加者19名）
- ② 「森林経営管理基礎研修」：森林施業プラン書作成に必要な森林調査手法や森林作業システム等の習得を目的に10月8日から9日にかけて実施（参加者18名）
- ③ 「地域実践研修」：各地域において、地域の特性や現状を踏まえた森林施業プラン書を作成し、今後の活動に繋げることを目的に今年度内に2回開催予定

また、既にプランナー研修を受講された方を対象に、スキルアップを図る目的で、最新のICT技術等について学べる「経営管理技能向上研修」を12月6日に開催する予定です。

森林所有者から信頼されるプランナーを目指す方、施業の集約化や再造林の推進に意欲のある方、ICT技術に興味のある方など、令和7年度も含め皆様の受講をお待ちしています。
(村岡英樹)



森林調査演習の状況



森林施業プラン書作成状況